

花吹雪

湯本明子

時忘れ昔に遊ぶクローバー

書を読むも綴るも厨虫時雨

春愁を掃除機に吸はせランランラン

公達きんだちに着せたき色のとりかぶと

花吹雪掬はんとして少女舞ふ

稿了のワインを恋ふも夜の秋

室生寺に端居して聴く午後の風

侘助の白砂に落花寺の昼

喪帰りの斜めにひらく黒日傘

余生只文字につながるかの子の忌

香水を今は嗅ぐのみモンロー忌

声もなく能面笑まふ春隣